（別紙様式４）

令和8年10月30日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校西日本昴自動車工科大学校	平成1年1月26日	三好　一哉	〒　805-0023 （住所）　福岡県北九州市八幡東区宮の町一丁目 1番1号 （電話）　093-651-5500
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人大原学園	昭和54年4月1日	中本　毎彦	〒　101-0065 （住所）　東京都千代田区西神田一丁目3番1号 （電話）　03-3292-6266

分野	認定課程名	認定学科又は専攻科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
工業	工業専門課程	一級自動車整備研究学科	-	平成26(2014)年度	令和 3(2021)年度

学科又は専攻科の目的	モータリゼーション化、国際化等の社会において、自動車整備士の分野を担うために必要な基本的原理を理解し、専門的能力と実践的技術を身に付けた人間性豊かな社会人を育成することを目的とする。
学科又は専攻科の特徴（取得可能な資格、中退率　等）	【取得可能な資格】 一級自動車整備士（総合）・二級自動車整備士（総合）・自動車メカニック検定 【中退率】5%　令和7年4月1日時点において38名在籍　令和8年3月31日において34名在籍　退学者2名　コース変更による転出3名

修業年限	昼夜の別	全課程の修了に必要な総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
4　年	昼間	単位	単位	単位	単位	0 単位	0 単位

学生総定員	学生実員(A)	留学生数(学生実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率
100 人	34 人	0 人	0 %	5 %

就職等の状況

■卒業者数 ©	8	人
■就職希望者数 (D)	8	人
■就職者数 €	8	人
■地元就職者数 (F)	5	人
■就職率 (E/D)	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	63	%
■卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	100	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　7 年度卒業者に関する令和８年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和7年度卒業生）

スズキ（株）、福岡トヨペット㈱、山口トヨペット、佐賀トヨペット、トヨタカローラ福岡㈱、アデル・カーズ㈱、山口日産自動車㈱　他

当該学科又は専攻科のホームページURL	https://www.o-hara.ac.jp/senmon/school/kitakyusyu_motor/jidousya/1kyuseibi/

企業等と連携した実習等の実施状況（Ａ、Ｂいずれかに記入）

総単位数	132 単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	11 単位
うち企業等と連携した演習の単位数	0 単位
うち必修単位数	11 単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	11 単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	0 単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	5 単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	7 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	1 人
計		9 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	9 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

○教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携

（1）教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針及び教育課程編成委員会等の位置付け

a.教育課程編成委員会を年2回以上開催しているか。	している
開催日時実績	第1回　令和7年8月8日　13:30～15:00/第2回　令和7年12月3日　13:00～14:30
b.教育課程編成委員会に、以下①～③の類型に該当する企業等委員が参加しているか。 ※①から③において、①又は②から1人、③から1人が委員として参画している場合、「している」を選択。 ※①又は②から1人、③から1人が委員として参画していない場合、「していない」を選択。	している
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）	
②学会や学術機関等の有識者	
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員	
c.学校の教育課程編成の責任者が委員参加しているか。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.教育課程編成委員会の議事を記録し、学内回覧等しているか。	している
f.企業等委員の意見を教育課程編成見直しに反映しているか。	している
g.次の教育課程編成委員会に、教育課程編成の見直し結果等を報告しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月30日現在

名　前	所　　属	任期	種別
清水　勝彦	一般社団法人 福岡県自動車整備振興会 北九州事務所　所長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	①
中本　佳博	ネッツトヨタ北九州株式会社 サービス部　技術課　係長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
一田　雄二	北九州日産モーター株式会社 営業本部 サービス部 次長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	③
三好　一哉	専門学校西日本昴自動車工科大学校　校長	―	―
小林　恒彦	専門学校西日本昴自動車工科大学校 教務部　部長　自動車課課長	―	―
木山　龍昭	専門学校西日本昴自動車工科大学校 教務部　自動車課　課長補佐	―	―
宮木　光司	専門学校西日本昴自動車工科大学校 教務部　自動車課	―	―
安藤　寿晃	専門学校西日本昴自動車工科大学校 教務部　自動車課	―	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

（1）実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針及び実習・演習等における企業等との連携内容

a.実習等又は演習の形態の授業で企業等連携を行っているか。	している
b.企業等と連携を行う際は、企業等との組織的な協定や契約を締結しているか。	している
c.企業等との連携内容を、連携先企業等との文書等で明示的に合意しているか（連携のマニュアル、手引き等定めているか）。	している
d.教育課程や学生の学修成果等に関する現状や情報、データを教育課程編成委員会の委員に提示しているか。	している
e.企業等の講師に対して事前打ち合わせや研修を行っているか。	している
f.企業等連携の実習・演習等の内容を学校側は適切に確認しているか（教員の見回り実施、実習日誌の作成等）。	している
g.企業等連携の実習・演習等における成績評価について、企業等と協議を行っているか。	している
h.適切な企業等連携の実習・演習となるよう、必要に応じて連携先企業等を見直しているか。	している

（特筆すべき工夫等）

（2）具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科　目　名	企業連携の方法	科目概要	連　携　企　業　等
基礎自動車整備作業実習ＡⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	自動車のブレーキ装置に関する構造及び整備技術について学びます。	㈱九州マツダ
基礎自動車整備作業実習ＢⅠ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	自動車のガソリンエンジンに関する構造及び整備技術、測定技術を学びます。	福岡トヨペット㈱トヨタカローラ福岡㈱
基礎自動車整備作業実習ＢⅡ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	自動車のマニュアルトランスミッションに関する構造及び整備技術について学びます。	㈱スズキ自販福岡
体験実習	3.【校外】企業内実習（4に該当するものを除く。）	企業における実践的な実習体験を行います。	福岡トヨペット㈱他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

（1）認定専門課程等の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

専門的かつ実践的な知識・技能を有し即戦力となる人材を育成するためには、教員一人ひとりが常に実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけなければならない。そのために下記のとおり教員研修の環境を整える。
「大原学園　教職員研修規程」の定めに基づいて実施。

（2）研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	整備主任者技術研修会	連携企業等：	一般社団法人福岡県自動車整備振興会
期間：	令和7年6月25日	対象：	大西　剛
内容	自動車整備技術研修		
研修名：	整備主任者法令研修会	連携企業等：	一般社団法人福岡県自動車整備振興会
期間：	令和7年11月4日	対象：	木山　龍昭
内容	道路運送車両法研修		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	仮説構築力向上研修		連携企業等：株式会社インソース
期間：	令和7年8月21日		対象：小林　恒彦
内容	仕事の精度とスピードを高める思考法を身に付ける		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	整備主任者技術研修会		連携企業等：一般社団法人福岡県自動車整備振興会
期間：		46191	対象：木山　龍昭
内容	自動車整備技術研修		

研修名：	整備主任者法令研修会		連携企業等：一般社団法人福岡県自動車整備振興会
期間：		46315	対象：木山　龍昭
内容	道路運送車両法研修		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	人を動かすコミュニケーション研修		連携企業等：株式会社インソース
期間：		46263	対象：宮木　光司
内容	キーパーソンへの働きかけ方		

4.「当該専門課程等を置く専修学校において、学校教育法第百三十二条の二第二項の規定により評価を受け、その結果を公表していること。」関係

○学校関係者評価

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	
(1)教育理念・目的・目標	
1　教育理念、目的及び目標の設定等	
①教育理念等を踏まえ、当該専門学校としての目的及び目標を明確に設定し、養成する人材像を明確にしていること。	同内容評価項目を設けている
(2)学校運営	
1　教育課程の編成と授業科目	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な教育課程編成・実施方針を作成したうえで、教育課程を体系的に編成し、系統性・段階性に配慮した授業科目を配置していること。	同内容評価項目を設けている
2　教育の実施	
①授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技など、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、成績評価基準に基づき成績評価を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位数の総授業単位数に占める割合を具体的に設定していること。	同内容評価項目を設けている
3　単位・卒業認定	
①学校の目的・目標及び養成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針（資格・免許等を含む習得させる職業能力を含む）を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業の認定をしていること。	同内容評価項目を設けている
4　学修成果目標の達成状況	
①卒業認定方針を踏まえ、学科・コースごとに職業能力を含む資質能力の修得（資格・免許等の取得や知識・技術・技能の修得を含む。）についての目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
②学生が望む進路の実現に関する目標を定め、その目標が達成できていること。	同内容評価項目を設けている
(3)学生の受入れ、学生支援	
1　学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理	
①入学者の受け入れ方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、合否を決定していること。	同内容評価項目を設けている
2　自主的な学習の促進に対する支援	
①学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　多様な学生に対する支援	
①適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生に対する支援を行っていること。　※任意項目	同内容評価項目を設けている

4　学生生活に関する支援	
①カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。	同内容評価項目を設けている
②留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	同内容評価項目を設けている
③学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。 ※簡易評価項目	同内容評価項目を設けている
④学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
⑤学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	同内容評価項目を設けている
(4)教育実施組織・教員	
1　教員の配置、募集、採用	
①教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員を確保するために基準等(教員の採用基準等)を整備し、適正に運用していること。	同内容評価項目を設けている
②教員の常勤・非常勤、年齢構成等、また教員一人当たりの授業時数等を把握していること。また、教員の専門性、教授力を把握、評価していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　教員の組織編制等	
①学校の目的に応じた分野の区分ごとに必要な教員組織を整備し、業務分担、責任体制を規程等で定めていること。	同内容評価項目を設けている
②教員間で連携、協力体制を構築していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　教員の資質の向上	
①学校の教育活動の改善、工夫を行うFD(Faculty Development)などの取組や、教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、企業等と連携して組織的に行っているこ	同内容評価項目を設けている
③教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
(5)教育環境	
1　教育環境の整備	
①教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。	同内容評価項目を設けている
②学生の学習支援のための施設(自習室等)を整備していること。また、学生の休憩、食事のためのスペースを確保していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
③図書室を設置し、専攻分野の教育に必要な専門書及び参考図書を配架し、必要に応じて学生が閲覧できるようにしていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
2　安全対策、防災組織	
①学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	同内容評価項目を設けている
②火災の発生や防災に関する組織体制を整備し、適切に運営していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
3　施設・設備等の点検、改善等	
①施設・設備等の日常点検、定期点検、補修等を適切に行っていること。※任意項	同内容評価項目を設けている
②施設の改築・改修、設備の更新等の計画を定め、適切に実施していること。※任意項目	同内容評価項目を設けている
(6)教育活動の基盤と改善・向上の取組	
1　中期事業計画と財務基盤	
①当該専修学校が策定している中長期的計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。	同内容評価項目を設けている
2　学校運営	
①学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること(職業教育に関するマネジメント(教育の企画・設計・運営等)における責任体制を含む。)。	同内容評価項目を設けている
3　学校評価の実施と改善活動	
①学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている
②特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。	同内容評価項目を設けている
③学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	同内容評価項目を設けている
④学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的に行っていること。	同内容評価項目を設けている
4　社会からの理解と情報の公表	
①当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	同内容評価項目を設けている
②教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取組んでいること。 ※任意項目	同内容評価項目を設けている

（3）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和〇年〇月〇日現在

名　前	所　　属	任期	種別
中本　佳博	ネッツトヨタ北九州株式会社 サービス部　技術課　係長	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	企業等委員
福田　哲矢	株式会社ホンダモビリティ九州	令和8年4月1日～令和9年3月31日（1年）	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
公表時期	令和8年10月30日		

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）情報提供

情報提供方法	ホームページ	「その他」の場合	ー
公表URL	https://www.o-hara.ac.jp/about/hyoka/		
公表時期	令和8年10月30日		

授業科目等の概要

	（工業専門課程　一級自動車整備研究学科）															
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○	－	－	エンジン構造学Ⅰ	エンジン本体とその作動を助ける付属装置について、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
2	○	－	－	エンジン構造学Ⅱ	エンジン本体とその作動を助ける付属装置について、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
3	○	－	－	シャシ構造学ＡⅠ	車体整備に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
4	○	－	－	シャシ構造学ＡⅡ	車体整備に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
5	○	－	－	シャシ構造学ＢⅠ	車体整備に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
6	○	－	－	シャシ構造学ＢⅡ	車体整備に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
7	○	－	－	電装品構造学Ⅰ	電気の基礎と理論を学びます。	1前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
8	○	－	－	電装品構造学Ⅱ	電装品に関する、構成部品及びその働きの基礎を学びます。	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
9	○	－	－	自動車工学Ⅰ	単位・接頭語・力学・科学・製図の基礎、自動車に関する計算について学びます。	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
10	○	－	－	基本作業実習Ⅰ	工作作業、工具・測定器具の使用方法を学びます。	1前	2	－	－	○	○	－	○	－	－
11	○	－	－	基本作業実習Ⅱ	自動車の基本的な取り扱い方法や整備機器の取り扱い方法を学びます。	1前	2	－	－	○	○	－	○	－	－

12	○	－	－	基本作業実習Ⅲ	アナログサーキットテスターの組み立てと電気の測定方法を学びます。	1前	2	－	－	○	○	－	○	－	－
13	○	－	－	基礎自動車整備作業実習ＡⅠ	50ｃｃエンジンを分解し構造や整備方法と測定技術を学びます。	1前	2	－	－	○	○	－	○	－	－
14	○	－	－	基礎自動車整備作業実習ＡⅡ	自動車のとブレーキ装置関係の構造と整備方法を学びます。	1前	2	－	－	○	○	－	○	○	○
15	○	－	－	基礎自動車整備作業実習ＡⅢ	自動車電気装置の整備について学びます。	1前	2	－	－	○	○	－	○	－	－
16	○	－	－	基礎自動車整備作業実習ＢⅠ	自動車のガソリンエンジンを分解し構造や整備方法と測定技術を学びます。	1後	2	－	－	○	○	－	○	○	○
17	○	－	－	基礎自動車整備作業実習ＢⅡ	自動車のシャシ関係部品（トランスミッション）の分解、組付けを行う。	1後	2	－	－	○	○	－	○	○	○
18	○	－	－	基礎自動車整備作業実習ＢⅢ	自動車の車体系電気回路について学びます。	1後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
19	○	－	－	基礎自動車整備作業実習ＢⅣ	自動車の法令点検について学びます。	1後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
20	○	－	－	基礎自動車整備作業実習ＢⅤ	自動車のシャシ関係部品（サスペンション・ステアリング）の構造と整備方法を学びます。	1後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
21	○	－	－	基礎自動車整備作業実習ＢⅥ	エンジンの電子制御を学びます。	1後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
22	－	－	○	自動車キャリアデザインⅠ	社会人として必要なスキルを学びます。	1後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
23	○	－	－	エンジン整備法Ａ	ガソリンエンジン（電子制御装置）に関する構成部品及びその働きを学びます。	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
24	○	－	－	エンジン整備法Ｂ	ディーゼルエンジンに関する構成部品及びその働きを学びます。	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
25	○	－	－	シャシ整備法Ａ	動力伝達装置に関する構造と整備方法を学びます。	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－

26	○	－	－	シャシ整備法Ｂ	かじ取り装置（パワーステアリング）に関する構成部品及びその働きを学びます。	２前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
27	○	－	－	電装品整備法	自動車の電気装置（安全装置・ハイブリッド）に関する構成部品及びその働きを学びます。	２前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
28	○	－	－	自動車工学Ⅱ	自動車に関する計算について学びます。	２前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
29	○	－	－	故障診断学エンジンⅠ	エンジンに関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行います。	２後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
30	○	－	－	故障診断学エンジンⅡ	エンジンに関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行います。	２後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
31	○	－	－	故障診断学シャシＡⅠ	シャシに関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行います。	２後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
32	○	－	－	故障診断学シャシＡⅡ	シャシに関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行います。	２後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
33	○	－	－	故障診断学シャシＢⅠ	シャシに関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行います。	２後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
34	○	－	－	故障診断学シャシＢⅡ	シャシに関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行います。	２後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
35	○	－	－	故障診断学電装品	電装品関係に関する故障診断知識の修得と国家整備士試験対策を行います。	２後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
36	○	－	－	特殊機構・材料・燃料・油脂	自動車の特殊装置、燃料・材料・油脂類に関する知識を学びます。	２前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
37	○	－	－	自動車法規・検査	道路運送車両法を学びます。	２前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
38	○	－	－	応用自動車整備作業実習ＡⅠ	2輪整備とオートマチックトランスミッションについて学びます。	２前	2	－	－	○	○	－	○	－	－
39	○	－	－	応用自動車整備作業実習ＡⅡ	デジタルテスタを利用した、自動車の電気装置について学ぶ。	２前	2	－	－	○	○	－	○	－	－

40	○	－	－	応用自動車整備作業実習ＡⅢ	自動車の法令点検と検査方法について学びます。	2前	2	－	－	○	○	－	○	－	－
41	○	－	－	応用自動車整備作業実習ＢⅠ	車体からエンジン、トランスミッション、エアーコンディショナーの脱着作業を行い、構造機能を学びます。	2後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
42	○	－	－	応用自動車整備作業実習ＢⅡ	ジーゼルエンジンの構造と電気自動車の整備方法について学びます。	2後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
43	○	－	－	応用自動車整備作業実習ＢⅢ	車両からのエンジン脱着方法とエアコンについて学びます。	2後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
44	○	－	－	総合自動車整備実習	ジーゼルエンジンの構造と整備方法について学びます。	2後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
45	－	－	○	自動車総合演習	国家整備士試験対策を行います。	2後	2	－	○	－	○	－	○	－	－
46	－	－	○	自動車キャリアデザインⅡ	社会人として必要なスキルを学びます。	2前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
47	－	－	○	自動車キャリアデザインⅢ	企業と連携して研修します。	2後	1	－	－	○	－	○	－	○	－
48	○	－	－	電子制御Ⅰ	電気・電子回路と電源回路、外部診断器について学びます。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
49	○	－	－	電子制御Ⅱ	電気電子理論、エンジン電子制御（アクチュエータ）を学びます。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
50	○	－	－	電子制御Ⅲ	電子制御式オートマチックトランスミッションについて学びます。	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
51	○	－	－	新技術Ⅰ	筒内噴射式ガソリンエンジンとコモンレール式高圧燃料噴射システム、ＣＶＴについて学びます。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
52	○	－	－	新技術Ⅱ	ＡＢＳ、車両安定制御装置について学びます。	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
53	○	－	－	１級自動車工学Ⅰ	電気回路の計算と電気回路の故障診断について学びます。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－

54	○	－	－	１級自動車工学Ⅱ	電気・電子回路の測定技術について学びます。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
55	○	－	－	自動車概論	ハイブリッド自動車とＣＮＧ自動車について学びます。	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
56	○	－	－	サービスマネージメントⅠ	職業訓練指導員について学びます。	3前	1	○	－	－	○	－	○	－	－
57	○	－	－	サービスマネージメントⅡ	企業研究及びプレゼンテーションについて学びます。	3後	1	○	－	－	○	－	○	－	－
58	○	－	－	１級自動車整備作業Ⅰ	法令点検を基本とした一般的な自動車整備作業について学びます。	3前	4	－	－	○	○	－	○	－	－
59	○	－	－	１級自動車整備作業Ⅱ	自動車部品の構造、分解組立作業について学びます。	3前	4	－	－	○	○	－	○	－	－
60	○	－	－	１級自動車整備作業Ⅲ	金属加工技術について学びます。	3前	4	－	－	○	○	－	○	－	－
61	○	－	－	１級自動車整備作業Ⅳ	自動車ボデーの補修技術について学ぶ	3前	4	－	－	○	○	－	○	－	－
62	○	－	－	評価実習・故障原因探求Ⅰ	電気配線図について学びます。	3後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
63	○	－	－	評価実習・故障原因探求Ⅱ	エンジンの電子制御について学びます。	3後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
64	○	－	－	評価実習・故障原因探求Ⅲ	エンジンの電子制御について学びます。	3後	3	－	－	○	○	－	○	－	－
65	○	－	－	電子制御Ⅳ	電子制御式パワーステアリングについて学びます。	4前	1	○	－		○	－	○	－	－
66	○	－	－	電子制御Ⅴ	オートエアコンについて学ぶ	4後	1	○	－		○	－	○	－	－
67	○	－	－	１級自動車工学Ⅲ	自動車の振動・騒音について学びます。	4前	1	○	－		○	－	○	－	－
68	○	－	－	環境安全	自動車に係る環境問題と安全作業について学びます。	4前	1	○	－		○	－	○	－	－

69	○	－	－	総合診断Ⅰ	ＣＡＮ通信とエンジンの制御について学ぶ	4 前	1	○	－		○	－	○	－	－
70	○	－	－	総合診断Ⅱ	ＳＲＳエアバッグとプリテンショナシートベルトについて学びます。	4 後	1	○	－		○	－	○	－	－
71	○	－	－	故障探求	自動車の故障原因探求について学びます。	4 後	1	○	－		○	－	○	－	－
72	○	－	－	1級自動車法令	自動車に関する法令について学びます。	4 後	1	○	－		○	－	○	－	－
73	○	－	－	評価実習・総合診断Ⅰ	シャシ関係部品の電子制御について学びます。	4 前	4	－	－	○	○	－	○	－	－
74	○	－	－	評価実習・総合診断Ⅱ	シャシ整備に関する高度整備作業機器について学びます。	4 前	4	－	－	○	○	－	○	－	－
75	○	－	－	評価実習・総合診断Ⅲ	エンジン制御について学びます。	4 後	4	－	－	○	○	－	○	－	－
76	○	－	－	体験実習	企業内活動における実践的な実習体験	4 前	5	－	－	○	－	○	○	○	○
77	○	－	－	サービスマネージメント実習Ⅰ	プレゼンテーションについて学びます。	4 前	1	－	－	○	○	－	○	－	－
78	○	－	－	サービスマネージメント実習Ⅱ	総合技術教育を行います。	4 後	2	－	－	○	○	－	○	－	－
79	－	－	○	１級自動車総合演習Ⅰ	自動車の総合知識と高度診断技術について学びます。	4 後	1	－	○	－	○	－	○	－	－
80	－	－	○	１級自動車総合演習Ⅱ	自動車の総合知識と高度診断技術について学びます。	4 後	1	－	○	－	○	－	○	－	－
81	－	－	○	１級自動車総合演習Ⅲ	自動車の総合知識と高度診断技術について学びます。	4 後	1	－	○	－	○	－	○	－	－
82	－	－	○	卒業前特別講座	キャリア教育を行います。	4 後	1	○	－		○	－	－	○	－
合計					82　科目　　132　単位										

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	本校に在学し、１２４単位以上の単位取得に基づき卒業審査を行い、認定者には校長が卒業証書を授与する。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	・学科…前期定例試験・後期定例試験の各試験結果を成績とする。 ・実習…各セクションの実技テストの点数を成績とする。 〔成績評定及び評定時期〕 ・成績評定は原則として学年末に行う。(前期・後期は評価点を記入する。) ・科目別成績評定は、秀、優、良、可、不可の5段階とする。 秀　100～90・優　89～80・良　79～70・可・69～60・不可　59点以下 ・授業科目の成績は、５種で表すと共に、それぞれの評価に対して、別に定める基準により GP (Grade-Point) を与える。 〔試験種類〕 ・本試験…学科試験及び各セクション終了後の実習実技試験。 ・追試験(本試験にかわる試験)…やむを得ない事由で本試験を受けられなかった者には、追試験(本試験にかわる試験)の機会を与える。 ・再試験…本試験で不可となったものには再試験を行う。	１学期の授業期間	27 週